

総合『Hankyu × Tankyu』の取組について

【京都市立川岡小学校 校長 居林 晃一郎】

本校の学校教育目標は「自分も人もしあわせになる学校をめざして～かしこくなる やさしくなる えがおになる～」です。たった一度の人生がしあわせであってほしいという願いを教職員全員が大切にして日々の教育活動に尽力しています。

上記の学校教育目標到達に向けて、本校では「総合的な学習の時間」「特別活動」「特別の教科 道徳」「生活科」等を核として、研究活動を進めています。特に「総合的な学習の時間」では校区内を走る阪急電鉄とのコラボレーションによる『Hankyu × Tankyu(阪急探究)』を中心に3年生から6年生までの他教科等の学習内容との関連を図りながら、テーマ別に学習を進めています。

3年生では、「どうすれば阪急電鉄の乗客が増えるのか」という大テーマをもとに、阪急電鉄のひみつやすてきなところについて、一人一人がテーマを設定し、書籍やインターネット等を活用して調べます。

4年生では、総合「ハピネス川岡」の学習の一環として阪急電車や桂駅のバリアフリーについて考えます。

5年生では、阪急阪神ホールディングによる【阪急ゆめ・まちわくわく WORK プログラム】を活用し、阪急電鉄グループの多岐にわたる事業内容や仕事について学び、京都市独自のキャリア教育プログラムとの関連を図りながら、広く「はたらくこと」の意義や大切さについて理解を深めていきます。

そして、6年生では、本取組の集大成として、地元川岡地域の歴史やそこに住む人たちの思いに触れながら、阪急電鉄の職員から直接阪急桂駅の歴史や発展過程を学び、阪急桂駅を中心とした未来の川岡のまちづくりについて、考えていきます。

全国的にも、鉄道会社とのコラボレーションを図って、総合的な学習の時間等のカリキュラムを構築されている学校はあると思われますが、4学年を通して、テーマ別に学習を進めているところは少ないのではないのでしょうか。

今後も児童の知的好奇心や学習意欲を高める手立ての一つとして、「鉄道」を有効かつ効果的に活用していきたいと考えています。

